

令和 7 年度
日本レクリエーション協会公認指導者養成
課程認定校研究連絡会議

全国研究集会 報告書

公認指導者養成課程認定校研究連絡会議

ご挨拶



公認指導者養成課程認定校研究連絡会議
幹事長 / 徳島文理大学
岡山 千賀子

「第 79 回全国レクリエーション大会 in あいち」大会において、課程認定校の皆様と研究フォーラムや情報交換会、各種体験など充実した時間を過ごすことができました。研究フォーラム「セッション 3」では、4 件の教育実践・研究発表があり、先生方のレクリエーション教育・実践に対する熱心な取り組みを拝聴し大変頼もしく感じました。発表された先生方、大変お疲れ様でした。また進行に関わってくださった幹事の先生方ありがとうございました。

「セッション 4」では「大学にレクリエーション部を創設された先人に学ぶ一創設の意義と実践活動への取り組み」と題して、北翔大学・特任教授で鹿屋体育大学・名誉教授の川西正志先生を講師として、仙台大学の仲野先生が進行を務めてくださいました。川西先生からは、「学生時代のレクリエーション部活動から学んだ実践知と実践力のその後」について、中京大学レクリエーション部の活動を中心にご講義いただきました。お若い先生方の懐かしい写真もみせていただき、先生方が取り組まれた、レクリエーション活動の原点を知ることができました。さらに、今後のレクリエーション教育の課題と展望についてもお示しいただき、その中で川西先生と仲野先生が共にご教示くださった「レクリエーション教育で集団の満足感を底上げすることができる、学生に生き方を探求させることが大切」という言葉が大変印象に残り、背筋が伸びる思いでした。素晴らしいご講演大変ありがとうございました。

フロアの先生方からも多くの意見を頂戴しながら、先生方の教育に役立つ情報をたくさんお持ち帰りいただけたのではないのでしょうか。

情報交換会では、日レクの皆さんと豪華なゲスト（元オリンピックの宇山氏・谷本氏、またスポーツ庁健康スポーツ課の菅原氏）と共に全国の先生方と楽しく有意義な時間を過ごすことができました。さらにスポーツウエルネス吹矢の体験もできました。

是非、来年も熊本県で皆様とお会いして、学びを深めるとともに楽しく語り合う時間を持ちたいと思っています。

実施要項

主催

公認指導者養成課程認定校研究連絡会議
公益財団法人 日本レクリエーション協会

開催日時

2025 年 11 月 1 日（土）
13 時～15 時 00 分

会場

ウインクあいち 1105 室

出席者

46 名

タイムスケジュール

13：00 開会挨拶

岡山 千賀子 氏

（課程認定校研究連絡会議 幹事長／徳島文理大学）

13：05 レクリエーション教育実践・研究発表

進行：築山 泰典 氏

（課程認定校研究連絡会議 監事／福岡大学）

永富 達也 氏

（課程認定校研究連絡会議 九州・沖縄ブロック幹事／九州龍谷短期大学）

発表者・演題：後述記載

15：25 閉会挨拶

築山 泰典 氏

15：30 閉会

【第 1 部】レクリエーション教育実践・研究発表

演題	発表者(敬称略)
健康体操教室の参加者と大学生が共に考え実践するレクリエーション活動の研究～健康体操教室参加者および大学生に与える効果・影響の検証～	本多 理紗 (札幌国際大学)
高等教育機関における初任者研修のあり方に関する研究～レクリエーション教育に携わる初任者教員の分析から～	佐近 慎平 (新潟医療福祉大学)
健康教室参加者の認知能力と体力向上およびレクリエーションダンスプログラムの楽しさの検証	高山 昌子 (大阪国際大学)
大学体育でのレクリエーション・スポーツにおける成績評価のためのルーブリック開発に関する検討～学生による自己評価の傾向と成績評価との関連から顕在化した改善点～	古田 康生 (岐阜協立大学)

【第 2 部】レクリエーション教育における事例発表

分野	発表者(敬称略)
スポーツ	本多 理紗 (札幌国際大学)
幼児保育	沖 雅美 (東京福祉保育専門学校)

発表資料

※ PDF ファイル

カーソルを当てて「ctrl」+「左クリック」
で資料が開きます。

健康体操教室の参加者と大学生が共に考え実践するレクリエーション活動の研究 ～健康体操教室参加者および大学生に与える効果・影響の検証～

【発表者】本多 理沙 氏 （札幌国際大学）

PDF ファイル

健康体操教室の参加者と大学生が共に考え実践する レクリエーション活動の研究

～健康体操教室参加者および大学生に与える効果・影響の検証～



本多理紗(札幌国際大学)
金子勝司(大阪体育大学)
佐近慎平(新潟医療福祉大学)
中曽根裕(仙台青葉学院短期大学)
高山昌子(大阪国際大学)

高等教育機関における初任者研修のあり方に関する研究 ～レクリエーション教育に携わる初任者教員の分析から～

【発表者】佐近 慎平 氏 （新潟医療福祉大学）

PDF ファイル

第79回全国レクリエーション大会inあいち
令和7年度「レクリエーション教育実践・研究発表」

高等教育機関における初任者研修のあり方に関する研究 ーレクリエーション教育に携わる初任者教員の分析からー

○佐近慎平、重藤誠市郎（新潟医療福祉大学）、大橋祐介（東筑紫短期大学）、
本多理紗（札幌国際大学）、中曽根裕（仙台青葉学院短期大学）、
中井聖（大阪電気通信大学）、金子勝司（大阪体育大学）、小池和幸（仙台大学）

健康教室参加者の認知機能と体力向上および
レクリエーションダンスプログラムの楽しさの検証

【発表者】高山 昌子 氏 （大阪国際大学）

PDF ファイル

健康教室参加者の認知機能と 体力向上およびレクリエーション ダンスプログラムの楽しさの検証

○高山昌子(大阪国際大学)
佐近慎平(新潟医療福祉大学)
本多理沙(札幌国際大学)
金子勝司(大阪体育大学)

大学体育でのレクリエーション・スポーツにおける成績評価のためのルーブリック開発に
関する検討

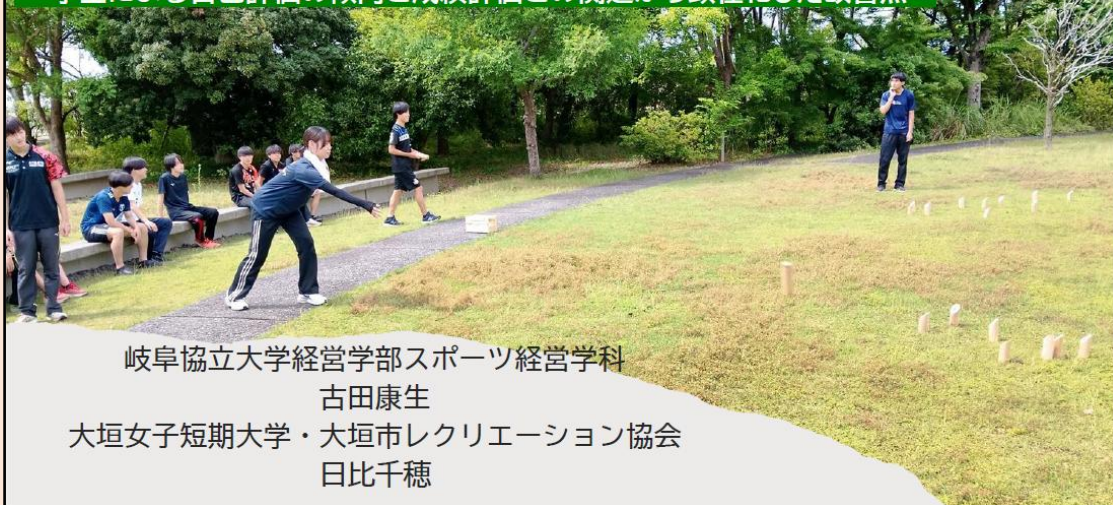
～学生による自己評価の傾向と成績評価との関連から顕在化した改善点～

【発表者】古田 康生 氏 （岐阜協立大学）

PDF ファイル

大学体育でのレクリエーション・スポーツにおける成績評価のための
ルーブリック開発に関する検討

～学生による自己評価の傾向と成績評価との関連から顕在化した改善点～



岐阜協立大学経営学部スポーツ経営学科

古田康生

大垣女子短期大学・大垣市レクリエーション協会

日比千穂

第79回 全国レクリエーション大会 in あいち 「セッション3」「セッション4」の報告より

【セッション3】

レクリエーション教育実践・研究発表

●研究発表

【座長】

築山 泰典 氏（課程認定校研究連絡会議 監事／福岡大学）

永富 達也 氏（課程認定校研究連絡会議 九州・沖縄ブロック幹事／九州龍谷短期大学）

【発表者】

本多 理紗 氏（札幌国際大学）、佐近 慎平 氏（新潟医療福祉大学）、高山 昌子 氏（大阪国際大学）、古田 康生 氏（岐阜協立大学）

●教育実践事例意見交換

【コーディネーター】

竹森 裕高 氏（課程認定校研究連絡会議 九州・沖縄ブロック幹事／西九州大学短期大学部）

【事例発表者】

沖 雅美 氏（課程認定校研究連絡会議 関東・甲信越ブロック幹事／東京福祉保育専門学校）

本多 理紗 氏（札幌国際大学）

【会場】

ウインクあいち 1105 会議室

【参加者】

46 名

【ねらい】

本セッションは、「研究発表」と「教育実践事例意見交換」の2部構成で実施された。研究発表では、令和6年度課程認定校研究連絡会議研究助成を受けた研究成果の共有を、教育実践事例意見交換では、レクリエーションに関する多様な実践事例を参考に養成の質の向上を目的とし、参加者との活発な意見交換を行った。

【内容】

本セッションでは、レクリエーション教育に関する研究発表と教育実践事例意見交換の2部構成で実施された。研究発表では、令和6年度課程認定校研究連絡会議の助成を受けた4つの研究成果が報告された。健康教室を対象とした2題では、参加者と大学生が共に活動を企画・実践するプログラムの効果や、認知機能・体力向上とレクリエーションダンスの楽しさとの関連が示され、地域住民の健康づくりにおけるレクリエーションの有効性が確認

された。また、高等教育機関における初任者研修の在り方を扱った研究では、レクリエーション教育に携わる若手教員の課題と成長要因が整理され、研修体系の改善の必要性が示された。さらに、大学体育における成績評価のためのルーブリック開発に関する研究では、学生の自己評価傾向と成績との関連が明らかにされ、評価の透明性向上に寄与する知見が報告された。教育実践事例意見交換では、学校教育・地域・福祉など多様な領域の実践が紹介され、参加者同士による活発な意見交換が行われた。研究と実践の両面から、レクリエーション教育の可能性と今後の方向性を共有する有意義な機会となった。

【参加者の反応】

本セッションの参加者の年齢は男女ともに幅広いものの、特に 50 代・60 代が中心であった。セッション全体の満足度は非常に高く、「大満足」「満足」が 96.7%を占め、不満の回答は見られなかった。自由記述では、研究発表・実践報告の双方が「大変参考になった」「明日から活かせる内容だった」など肯定的な意見が多く、授業運営や地域連携、評価ルーブリックなど、自身の実践への学びを得たとする声が多数寄せられた。一方で、会場が狭く「席が足りない」「資料が欲しい」「分科会形式で議論を深めたい」といった運営面の改善要望も見られた。総じて、レクリエーション教育に関する多面的な学びと交流が得られた充実したセッションであったと評価できる。



報告：課程認定校研究連絡会議 九州・沖縄ブロック幹事
九州龍谷短期大学 永富 達也

【セッション 4】

大学レクリエーション部を創設された先人に学ぶー創設の意義と実践活動への取り組みー

【進行】

仲野 隆士 氏（課程認定校研究連絡会議 顧問／仙台大学教授）

【講師】

川西 正志 氏（北翔大学特任教授／鹿屋体育大学名誉教授）

【会場】

ウイंकあいち 1105 会議室

【参加者】

37 名

【ねらい】

1972 年 4 月、中京大学に体育会レクリエーション部が設立され、その活動は 2025 年の現在も 50 年以上続いている。その間、2005 年 11 月には国から「緑綬褒章」が授与された。本セッションでは、レクリエーション部設立当時の社会的背景、設立の目的や活動内容について設立者から直接お話を伺うことによって、レクリエーション活動を通して得られる「実践知」や「実践力」について学ぶと共に、今後のレクリエーション指導者養成の課題と展望について考えることをねらいとした。

【内容】

冒頭に、仲野先生より課程認定校の現状と課題についてご説明をいただいたが、少子化に伴いその環境は年々厳しさを増している。しかし、このような状況下においても「中京大学体育会レクリエーション部（以下、レク部）」はおよそ 50 年前からの活動を現在も継続している。レク部設立前年の 1971 年、体育学部が豊田キャンパスに移転した。その後キャンパス内の環境は整備されていくものの、当時は「何もない」状況にあった。大学側からレク部の創設を打診された川西先生は、「ならば好きなことをやってみよう」と設立を決意し、そこに 13 人の部員が集った。レク部の活動を開始するに当たり、レクリエーションの理解を深めるためにさまざまな研修に参加した。その中で、「こういう指導者に教わったらレクリエーションをやりたくなる」と強く感じた研修があったそうだ。学生時代にどのような指導者に出会うかは、学生時代にとどまらずその後の人生にも影響を与えるものである。レク部の活動内容は、中京大学の学生が参加する「レクスキー」といった学生にレクリエーション活動を提供する機会の他、「これからは競技スポーツだけではない、社会体育の時代だ」との思いから、地域に貢献できるプログラムを検討した。その結果、子どもを対象としたスタンツ教室（体操教室）やキャンプ、子ども会でのレクリエーション活動等を次々と立ち上げられた。それぞれの事業の立ち上げにあたり準備段階で経験したことを含め、レク部員が身につけた「実践力」は、大学卒業後、仕事やその後の人生でいかされている。

【参加者の反応】

参加した先生方からは、自らの学生時代に感じたレクリエーション活動への思いや、レクリエーション教育の原点について改めて考えてみたい、といった感想が寄せられた。また、「レク部の成り立ちを知り、その可能性を感じた」といった声も聞かれた。過去にレク部が活動していたが、少子化に伴い部員数が減少し、廃部または休部となり、残念ながら再開の目処が立っていないといった学校が、全国各地に存在することが予想される。そこで、川西先生からは「部活動において一つの学校では部員数が少なくて練習や試合がままならない場合、複数の学校が合同で活動するケースが珍しくなくなってきた。レク部においてもこの方法を取り入れるなど、柔軟に対応してみてはどうか」とのアドバイスを頂いた。学生の「実践力」を高める授業以外のレクリエーション活動の場を提供し続けることの重要性を改めて学ぶことができた。



報告：課程認定校研究連絡会議 関東・甲信越ブロック幹事
東京福祉保育専門学校 沖 雅美